

当社では機械加工や板金加工を行う一方で、国内で「唯一」と呼ばれるものを製造している。それはスズ製のキャップシールである。キャップシールとはワインやウイスキーの瓶の注ぎ口に装着されていて、飲む前にソムリエナイフやミシン目から手で開封するものだ。封緘（ふうかん）をする役目以外にも商品のデザインにも大きく影響する。

ありがたいことに本県を代表する笹の川酒造のYAMAZAKURAウイスキーなどにも採用していただいている。今でこそ全国各地のワイナリーや蒸留所、酒蔵で採用され、ご愛顧いただいているのだが、ここに至るまでの道のりは簡単なものではなかった。

元々は県内の他の会社がキャップシールを製造していたのだが、倒産してしまい、当時機械のメンテナンスで出入りしていた父（当時の社長）に「従業員として私たちを使ってほしい」と相

民報 サロン

談を受けたのであった。悩んだ末、競売に参加し、競売に出されていた設備の中で主力ともいえないスズ用キャップシールの製造設備だけを競り落とした。そして、その会社の従業員を雇い、包装事業部を立ち上げたのだ。当初は売上げを生み出すこともできず、いっそのこと辞めてしまおうかと何度も

苦難を乗り越えた先



近藤 有美

思うほど、3年間苦しみながら格闘した。ただ、「国内唯一」という看板を守るために前に進む道を選んだ。

キャップシール製品の取り扱いの幅

を広げるためにスズ製キャップシールだけではなく、自動機設計と機械加工板金加工を得意とする当社の強みを生かそうと考えた。収縮フィルム製キャ

るのだ。

製品によっては飲料メーカーとデザイナーが立ち会って何度も色合わせを行い、多くの意見をいただくこともある。全員が本気で「納得できるものをお客さまに届けたい」という一心で取り組む時間が私はとてもなく好きなのだ。大変なこともあるが、お客さまの製品を作り上げるチームの一員になれることがとても誇らしい。

包装事業部の立ち上げ当初、厄介者だったキャップシール部門は今や会社の大切な柱となっている。当時、競売で購入したスズの機械たちはオーバーホールしながらも今も現役で生産を支えてくれている。

これまでの先人の努力が基盤となり、今日まで進化を遂げているのは間違いない。これからも酒類業界の陰の立役者としてプライドを持って、挑戦しながらも進化を続けていきたい。

（中島村清津、フジ機工社長）